

Colaboração do
Povo Japonês



国連人口基金 UNFPA モザンビーク事務所 日本政府拠出プロジェクトニュースレター

ISSUE 2: ナンプラ州特集 - DECEMBER 2021



日本政府拠出プロジェクト ナンプラ州での主な進展

10,300人以上の女性・少女

が日本政府拠出のモバイルクリニックを通して、生命を守るリプロダクティブ・ヘルス(性と生殖に関する健康)サービスを受診。2021年4月～10月の間、モバイルクリニックはナンプラ州の対象地区に140回以上派遣されました。

12,400人の女性・少女を含む、 17,713人の国内避難民

がジェンダーに基づく暴力(GBV)とリプロダクティブ・ヘルスについての意識啓発セッションに参加しました(2021年4月～10月)。

29人のコミュニティ・アクティビスト

が日本政府拠出のトレーニングを受講してコミュニティの変革の担い手となり、34,561人を有する地域で、最も脆弱な人達が生命を守るために必要なサービスの存在を知り、アクセスできるよう支援する、重要な役割を担っています。

ナンプラ州 国内避難民の状況

*DTM Baseline Report - Round 13
**MISP Calculations



ナンプラ州の
国内避難民**99,448人***



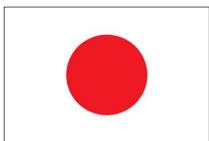
出産可能年齢
(15 - 49歳)の女性
23,868人**



国内避難民の
2,819人が妊娠中**



今後3カ月間、妊娠中の女性**141人****が
出産時に**生命に関わる合併症**にかかる危険性あり



Colaboração do
Povo Japonês



木村駐モザンビーク大使のナンブラ州プロジェクト視察

ナンブラ州・メコンタ地区での

モバイルクリニック視察&コミュニティ・アクティビストとの交流

木村元駐モザンビーク特命全権大使は12月中旬ナンブラ州・メコンタ地区を訪問し、日本政府拠出プロジェクトを視察しました。

木村大使は、モザンビーク政府との連携の元、UNFPAがパートナーNGO・DKTと共に実施しているモバイルクリニックを視察。

日本政府拠出のトレーニングを受講し、国内避難民やホストコミュニティの女性・少女を対象に家族計画サービスやジェンダーに基づく暴力(GBV)の意識啓発活動を行う、コミュニティ・アクティビストとも交流しました。



“日本政府拠出プロジェクトは、武力衝突によりカーボデルガード州から避難してきた最も弱い立場にある女性や少女に、命を救うような変化をもたらしています。

今日私たちはナンブラ州で、リプロダクティブ・ヘルスサービスや、私たちが支援しているコミュニティ・アクティビストが実施するジェンダーに基づく暴力についての啓発活動から、若い女の子や女性が恩恵を受けている様子を目の当たりにしました。”

- ジェニー・カールセンUNFPAモザンビーク事務所副代表



プロジェクト基本情報

プロジェクトの目的：
モザンビーク北部の16万人を超える女性と少女（国内避難民とホストコミュニティ両方）を対象に、包括的なリプロダクティブ・ヘルス（性と生殖に関する健康）とジェンダーに基づく暴力の予防・対応サービスの強化・拡大を目指します。保健システムの強化と能力開発を通して、緊急時のリプロダクティブ・ヘルスとジェンダーに基づく暴力への対応サービス、さらに早期復興のための介入を支援していきます。

供与額：
1,000,936米ドル

対象地域：
モザンビーク北部のカーボデルガード州、ニアツサ州、ナンブラ州

UNFPA Mozambiqueをフォロー: